

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270800386		
法人名	有限会社とんぼう		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地	青森県むつ市田名部字土手内74-237		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設ではその人がその人なりの暮らしが安心して営めるよう支援しながら、昔からその方が行ってきた農園作業や世話好きな方など、その方の役割を見出しながら職員とともに第二の家庭を目指している。地域の方々と密接にかかわることで、行事や農園にも参加していただき利用者地域の方が共に過ごすことで、利用者の生きがいや活力を発揮し楽しくホーム生活が送れるような工夫が考えられている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所内は、広く明るい空間で清潔感がある。ソファを設置したり、畳の小上がりなど、ゆったりとくつろげる空間を作っている。職員は利用者が心地良く過ごせるようにテレビの音量等にも配慮している。廊下から外の畑へすぐに出られるようになっており、農作業を通しての自立支援に取り組んでいる。積極的に外出支援を行い、地域交流や馴染みの関係を継続できるよう支援している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、定期的に行われる職員会議の場で職員に掲示し、念頭におくようにしている。	玄関に理念を掲示し、職員は出勤時に理念を確認している。理念の実践に向けて日々取り組みめるよう、年度初めに全職員で理念を再度共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々については、毎週一回開催される町内会の集いや介護者教室などに参加し、意見の交流や地域の方々が必要としている情報を提供することで施設の理解と親しみやすい関係が築かれるよう努めている。	定期的に地域の老人会・町内会に参加し、情報を提供したり地域の情報を得ている。得た情報を基に、地域で開催される祭りやゴミ拾いといった行事に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や祭りに参加、協力し信頼関係を築きながら必要に応じて相談等を行い、気軽に施設にも来ていただけるような雰囲気づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現状で2ヶ月に1度の開催はできていない。	老人会や町内会で、事業所の取り組みについて報告をしている。運営推進会議は、委員が出席出来ない事もあり、2ヶ月に1度の開催は実施出来ていない。	運営推進会議のメンバーに協力を要請し、2ヶ月に1度の開催を実施出来るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの問い合わせや運営状況の報告時には積極的に情報提供を行い、検討しながらサービスの質の向上が促されるよう努力している。	事業所の運営・制度上の疑問等がある際は、市の担当者に電話で聞いたり、必要時は直接出向いている。月に1度は連絡を取り、事業所の取り組みを情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対策のマニュアルを整備し、禁止条項については年一回職員会議で取り上げて身体拘束を行わないケアをしている。	身体拘束防止についてのマニュアルを作成し、研修を実施している。事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、年一回職員会議で取り上げ話し合い、職員全体に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方の中に成年後見制度を利用している方がおり、後見人の方から成年後見制度についての指導、アドバイスを頂き、職員会議の中で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する説明要請があった場合には、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が家族等の意見、要望はその都度受付、職員会議を通じて職員全体で検討し、迅速に解決されるよう取り組んでいる。	家族の面会時に必ず意見を聞くようにし、職員会議の場で家族と利用者の意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回開催されている職員会議で、職員の意見や提案を聞き、その都度検討し改善されるよう取り組んでいる。	毎月一回、職員会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々の休み希望を仕事に支障がきたさない程度で要望、希望に沿えるよう勤務体制が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じて、施設内外の研修に参加してもらい、職員会議で報告することで共通理解されるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設開催する研修会に参加させていただき、その中で交流が図られるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から承諾を受け、管理者と看護師が専門的な視点で直接本人と面談し、現状を把握した上で信頼関係が築かれるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅介護事業者より事前に状態、近況等を把握する。管理者と看護師が家族と直接面談し、家族の要望や困っていることに対して専門的に回答し利用される方が安心して生活できる環境であることを理解していただけるよう働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や看護師が専門的な観点からわかりやすく説明し理解していただいた上で、サービス提供を受けるか判断してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で馴染みのある言葉がけを行い、かわりを多くすることで信頼関係を築きながら、本人の役割を見出すことで、その人らしさを失うことなく、職員が自然に共存することで、一つの家族が形成されるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やささいな出来事にも来初する機会を設けていただき、本人と家族の距離が広がらないよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の希望があれば時間を設けて、馴染みの深い場所や人に出会う機会を設け、関係が途切れないよう支援している。	馴染みの関係を継続してもらう為に、昔からの知人の所へ訪問できるよう外出支援を行っている。また、直接行けない場合には、利用者が手紙を出す事の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中から色々な情報を引き出し、他者との関わりを導き出し把握することで、より良い関係が築かれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どのような理由であれ、契約が終了した場合であっても退所された家族に対して継続的に相談等の支援を行うことは入所時に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞きながらケアしている。それが困難な場合には家族からの意向も参考に本人本位なケアが提供されるよう努めている。	日々のケアの中で、本人の思いを把握出来るよう努めている。普段の何気ない会話の中でもニーズを引き出し、ニーズに即した対応が出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、家族を通じて生活歴や暮らし方を聞きまた、これまでのサービスの利用経過についても家族や事業所等に問い合わせるなど、スムーズなサービス提供に努めている。知りえた情報については職員会議等で周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者は自分のペースで生活しており、職員は危険のないよう見守っている。また、入居者の状況変化や現状の把握のため、個人の記録表を活用し全職員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的(月1回)にカンファレンスを通じて、全職員に意見を求め、ケアプランを作成している。家族や関係者にも意見をいただき、ケアプランに反映しその人らしさが失われないようなケアプランを作成するように努めている。	月1回カンファレンスを開催し、利用者のニーズがプランに反映されるよう話し合っている。作成したケアプランは、家族に確認してもらい意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録があり、日常生活の様子や変化を日々記録している。介護計画についてはケース記録とは別に介護記録に記載によりモニタリングの手法としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性という点については施設の構成上、十分なサービスが提供できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民と交流しながら信頼関係を築きながら、ボランティア活動に参加していただけるよう働きかけている。その他の機関についても参加していただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用していた医療機関を引き続き利用している。また、受診のみではなく健康状態の維持、管理についてもかかりつけ医の指示を仰ぎながら健全に生活できるよう支援している。	本人・家族が希望する医療機関に受診することが出来る。受診の支援も行い、適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活の中で常に入居者の健康状態を把握、些細な変化にも気を配りその都度看護師に報告、適切な指示を仰ぎながら処置や受診するような体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を頻回にすることで、職員自ら入院者の状況を把握し、医療機関では医師や看護師との情報交換することで入院時の状態について情報提供していただき、退院時に迅速に対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対応する為の設備が整っておらず、重度化した場合には家族と相談し重度化に対応できる施設等の紹介を行っている。	入居時の契約の際に、重度化・看取りの対応はしないという事業所の方針を説明し、家族から同意を得ている。重度化・看取りになった際は、対応可能な他事業所への紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な職員会議の中で医療的な対応については、看護師からの適切な対応、指導を行っている。急変時や事故発生時の対応についても消防署の研修会に全職員が参加することで、応急手当等の対応ができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回以上実施している。その際、消防署の方より災害時の対応についての助言を頂き訓練を通して職員は体に身につけている。地域の方々には集会に参加し改めて災害の際の協力についてお願いしている。	緊急時・災害時のマニュアルを作成し、防災訓練を年に2回実施している。緊急時に駆けつけてくれる近隣住民が決まっており、地域からの協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや職員会議の中で、職員同士で自分自身の対応を見直し、客観的にも他職員から意見を言い合える機会を設けている。	職員会議等で利用者への対応について見直している。日々の業務の中でも、利用者に対する言葉遣い等について職員同士で注意合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の訴えや問いかけに対して、職員が耳を傾け理解することで、入居者一人ひとりが望んでいることを実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動は特に制限せず、危険のないよう見守りながら入居者は自由に自分のペースで生活を送れるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室で自由におしゃれが楽しめるよう使い慣れた化粧品を準備したり、通いなれた市内の理容店に行き、好みの髪型にカットしたり出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の昔ながらに知恵を生かしながら、一緒に美味しい物を作ったり、包丁が使える方には物を切ってもらするなど職員と一緒に調理できる環境を整え楽しんでいる。	行事の際は、利用者から食べたいメニューを聞いて食事を楽めるように工夫している。食事の準備や片付けは、利用者が楽しく手伝えるように職員が声を掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族からの情報やかかりつけ医からの指示をもとに本人に最適な食事摂取量や食事バランスを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きを行える方には声掛けにて促し、それ以外の方に対しては、毎食後介助にて義歯洗浄を行い、毎週一回は全入居者を対象に消毒することで口腔内の清潔が保たれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	提示でのトイレ誘導を行っているが、排泄チェック表を活用することで、個人の排泄パターンを把握、声掛けのみで自力排便を促し、トイレには個々の排泄物品を準備し自尊心に配慮し、排泄の自立支援に努めている。	自立支援を目指し、オムツをししない取り組みをしている。排泄パターンを把握し、トイレへ誘導する事で、オムツが必要だった方が使用せずに対応出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排便記録を活用し、医師、看護師と連携しながら食事や水分摂取量に注意しながら、その都度原因等を検討し、その人なりの改善方法を見出しながら、スムーズな排便が促されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望に応じて入浴は出来る体制ができています。歩行困難者にたいしてはリフト浴を活用し安全に入浴していただいている。入浴時間帯は概ね2時間を設定し、ゆったりと入浴できるようになっている。	利用者の希望に応じて入浴出来る体制を整えている。好きな時間・好きな頻度で入浴することが可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠、休息パターンを把握することで、十分な休息が確保されている。長い生活の中で体調を崩し十分な休息を得られない方には、医療機関を受診し適切な指示のもと、早期に改善されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については看護師が管理、把握している為、必要に応じて情報提供してもらい、目的、用法、用量と考えられる副作用等の助言を職員会議を通して全職員に周知している。薬の使用の際は必ず看護師の指示を仰ぎ事故防止に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報提供と日々の会話の中から、その方の役割や生活感を把握し、その人らしさが損なわれないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間を除き、天候のよい日には近隣の散歩を行ったり、ホームの敷地内を利用しておやつを食べながら周囲の景色を楽しみながら気分転換を図っている。外出の希望があったときには出来るだけ希望に添えるよう支援している。	利用者が外出を希望した際は、対応できるように体制を整えている。予定以外に利用者からドライブに行きたい・外に行きたいと話が聞かれた場合でも、気分転換出来るように外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の程度にもよるが、家族との相談のもと家族が承諾してもらった方については、事前に持参金を報告してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家屋への電話の希望があったときにはその都度対応している。手紙の希望があった場合には、状態に応じて代筆にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール等の共有スペースには観葉植物を置き、リラックスできる環境づくりをしたり、季節毎に飾り付けを変えることで季節感を感じていただくなど心地よく過ごしていただくよう努めている。	ホールの隅に畳の小上がりがあり、昼寝ができるようになっている。テーブルと椅子の他に、ソファが設置してあり、ゆったりくつろげるようになっている。事業所内は明るく清潔感があり過ごしやすい。職員は、不快感のないようにテレビの音量等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室コーナーやソファを整備し、個々に思い向くままに活用し、気の合った者同士が対話したり、自由に横になれるように工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談しながら、不定期ではあるが部屋の模様替えを行ったり、本人が使い慣れた家具や持ち物を持参してもらい使ってもらえるよう配慮している。	入居前に家族と本人に居室を見てもらい、家具の持ちこみを勧めている。利用者の好みや、個々の生活に合わせた空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態や能力に合わせ部屋の配置を決め使い勝手が良く安全に配慮している。施設内は誰が見ても分かるような掲示になるよう工夫している。		